

昨年発生した新型インフルエンザは第2波として広がり続けております。油断する事なく予防・早期診断治療に努めましょう。

勤務医に関する2つの協議会「平成21年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会」と「平成21年度全国医師会勤務医部会連絡協議会」の報告がそれぞれ宮里善次先生、城間寛先生よりなされています。宮里先生が提案されている、日中に受診できるような社会システムの構築案、救急部門のマンパワーの増進案、ITネットワークによる地域連携案の日医中央での受け取り・推進を期待したい。城間先生は、勤務医をめぐる諸問題に対する対策についての報告を紹介されていますが、医療界が社会の要請に応えるためにはチーム力の強化が重要だろうとされています。

「平成21年度第4回沖縄県・沖縄県医師会連絡会議」が安里哲好先生により報告されています。県立病院問題、小児救急問題、地域医療再生計画(案)の決定、沖縄県がん対策推進アクションプラン(案)についての報告ですが、がん検診についてはやはり受診率アップに向けての啓発が必要であろう。

野原薫先生から「平成21年度永年勤続医療従事者表彰式」の様子が報告されています。52施設から150名の方々が表彰されています。20年勤続に深く敬意を表します。また同時に永年勤務できるような環境の雇主施設の存在も忘れてはならないと思います。

これにも増しておめでたい事が報告されています。平良賀計先生が瑞宝小綬章、幸地昭二先生が日本医師会最高優功賞、糸数健先生が沖縄県功労章を受けられています。御三名の先生方におかれましては誠にめでとうございます。今後とも変わらぬ御指導を賜りたいと存じます。

「平成21年度第3回マスコミとの懇談会」は「病病連携・病診連携」について玉井修先生の司会で開かれています。連携は近年かなり発展してきていますが、さらにITによるネットワーク化が進められつつあります。マスコミ側の話を聞くと、病院とクリニックの機能分担の重要性が一般の方々には未だ十分に解っていないようです。このような懇談会を通して、マスコミにより広く啓発してもらえれば希求されます。

「生涯教育コーナー」では金城紀子先生から「小児のリウマチ性疾患～若年者特発性関節炎

を中心に～」について解説いただいております。近年、リウマチ性疾患の治療は急速に進歩しているようですが、それは小児においても変わりないようです。

「プライマリ・ケアコーナー」は山口健先生が「脳卒中後の麻痺足」の中で、歩ける患者さんの装具について解説されています。‘装具’が麻痺の科学的知見に基づき作成されたものであり、それを用いたりハビリや合併症についてもよく理解できました。

「インタビューコーナー」は琉球大学病態解析医科学講座循環系総合内科学教授の大屋祐輔先生です。医療者の育成や先生の専門分野における本県医療の先導をよろしく願っています。

呉屋五十六先生により「第51回地区医師会連絡協議会」の様子が報告されていますが、特に看護師不足に関する問題の早急な改善が望まれます。

「はたちの献血」キャンペーンについて、新垣均先生が述べられています。血液製剤の適正使用には充分留意したいものです。

アレルギー週間に因んで、石川修作先生と嘉数光雄先生にそれぞれアレルギー性結膜炎とアレルギー性鼻炎について解説いただきました。門外漢の小生にも両疾患の病態と外科療法についてよく理解できました。

幸地賢治先生には、異色?の本の紹介を頂きました。最近、漫画を読んでいませんが、確かに心を打つ漫画も多いと思います。漫画とえば、小生は水島新司と手塚治虫が真っ先に頭に浮かびますが、幸地先生のお勧めに我が意を得?また漫画を読んでみたくなりました。随筆は桑江紀子先生、名渡山愛雄先生、宮城英雅先生、洲鎌盛一先生にいただきました。桑江先生の感想記、名渡山先生の回顧記は大変興味深く拝読いたしました。また宮城先生、洲鎌先生それぞれの陶芸、マラソンに趣味のすばらしさ、醍醐味を感じました。

今月号で勤務医問題対策についての会議報告がありましたが、勤務医に限らず医療界の厳しさは続いています。診療報酬改定は配分の見直しでなく、全体の引き上げを是非実現してほしいものです。

広報委員 久場 睦夫